

R5年度ネットワーク会議の取組み状況

包括	テーマ	話し合いにより分かったこと、課題
上野ヶ丘	認知症の方を支える体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域で互いに受け入れ、支えるためには家族や地域の理解が大切であり、そのためには広報啓発が重要。 認知症サポーター養成講座の開催や圏域版認知症ケアパスの配布先を工夫するなどし、認知症に関する普及啓発を継続的に行っていく必要があり、特に若い世代から学習機会を得ることが重要。
碩田	地域と福祉サービスのつながり	<ul style="list-style-type: none"> 地域とケアマネジャーとの連携が不足している。
王子	住み慣れた地域で暮らし続けるための課題の共有	<ul style="list-style-type: none"> 医療や介護など各分野での横の繋がり構築が必要。
大分西	災害時の地域と福祉の連携	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化や地域の関係の希薄化により、繋がりや助け合いの仕組みが不足している。 災害などの緊急時に地域住民と福祉職が連携できる仕組みが必要。
南大分	地域資源の把握	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の移手段が不足している。 通いの場の担い手が不足している。
城南・賀来	フレイル予防	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の社会資源の整理、周知が必要。 介護やフレイルへの関心が低い方々へのフレイル予防の周知、啓発が必要。 高齢者支援に関わる人の協働が必要。
城東	社会参加の場について	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者が多い。 地域活動への参加が減少している。
滝尾	地域の困りごとに対する「連携」について	<ul style="list-style-type: none"> 地域での助け合い活動が必要。 一人暮らしでの買い物や通院について、将来に不安を感じる住民が多い。特に移動支援の整備が必要。 ゴミ屋敷問題、隣人トラブル、行方不明問題等、年々増加している。
明野	医療と介護の現状把握及び地域住民の生活上のニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の方を支援に繋げる仕組みが必要。
原川	圏域内独自事業の現状と今後の展開に関する共有	<ul style="list-style-type: none"> 公的サービスのみで頼ることなく、早い段階から介護予防に取組めるよう、運動、食事また交流ができる場を圏域全体に拡げていく必要がある。
鶴崎	運転免許返納後の困りごとについて	<ul style="list-style-type: none"> 主に買い物や通院の手段の確保が必要。
大東	地域の通いの場について	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場の創設や既存の通いの場に人が集りやすくするための工夫が必要。 地域で住民同士が助け合える体制の構築が必要。
東陽	地域での障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> 障害についての相談窓口が分からない人が多い。 障害の有無に関わらず、地域で「丸ごと」繋がることの啓発が必要。
大在	防災について	<ul style="list-style-type: none"> 要介護者の把握と避難の手順の確認が必要。 担当者や情報の内容も変化するため、数年に一度は介護関連事業所、地域住民の代表者との情報共有が必要。
坂ノ市	地域の社会資源の活用について	<ul style="list-style-type: none"> 公民館やグランドゴルフの情報が公開されていない。 高齢者の移手段が不足している。 サロンの後継者が不足している。
植田	認知症の見守りネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する相談先の普及啓発が必要。 行方不明時に早期対応できる仕組みが必要。
植田西	認知症の基礎知識と対応の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 認知症予防の啓発が必要。 個人情報保護の関係から必要な人が支援に繋がらない場合がある。
植田南	高齢者支援のための情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> 各団体等がそれぞれ情報を保有しているが、個人情報保護の観点から共有できず、連携がスムーズに行えない。 多世代交流の機会が必要。
植田東	地域とケアマネジャーが連携した見守りの体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 校区それぞれの実情に則した見守りの仕組みをケアマネジャーと共有することが必要。
竹中・判田	地域と事業所との協働について	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動、交流の場が減少している。 地域の多様な主体との連携が必要。 高齢者の移手段が不足している。
戸次・吉野	(戸次) 高齢者の災害に備える	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に備え、平時からの関係づくりが必要。 地域住民と福祉職で災害の対応、備えに対して具体的な話し合いができる体制づくりが必要。
	(吉野) 生活支援に関わる社会資源について	<ul style="list-style-type: none"> 地域内で利用しやすい民間サービス等が少なく、地域での助け合いの仕組みが必要。 地域包括支援センターや市の高齢者サービス等の周知が不足している。
野津原	生活支援について	<ul style="list-style-type: none"> 困っている方を支援する人材の確保が必要。 校区単位で地域の困りごとを共有し、解決できる仕組みづくりが必要。
佐賀関・神崎	誰もが集まれる居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が気軽に集まり、悩みを相談できるような場所が必要。 小さな困りごとを相談、解決してもらえるような組織が必要。 若い世代の力が不足しており、地域活性化が図れていない。

<用語の解説>

- 認知症ケアパス…認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れをまとめたもの
- 認知症カフェ…認知症の方とそのご家族、地域住民や専門職など誰もが気軽に集い、おしゃべりや情報交換等ができる交流の場
- フレイル…健康と要介護の中間の状態のこと
- 通いの場…地域住民同士が気軽に集い、「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所。ここでは高齢者が対象の介護予防に繋がる場を指す